



令和3年4月23日(金)発行  
 校長 栗原博巳  
 北九州市八幡東区尾倉三丁目10番1号  
 HP: www.kita9.ed.jp/ogura-j/

<学校教育目標>  
 豊かな心をもち、健やかでたくましく行動する生徒の育成～みんなで考え、みんなで取り組み、みんなでつくる尾倉中学校～  
 <目指す生徒像>  
 ① 感性豊かで、意欲的、主体的に学習する生徒  
 ② 健康で明るく、思いやりのある生徒  
 ③ 礼儀正しく、奉仕の精神に満ちた生徒  
 ◇ 元気のいい挨拶・礼儀・身なり・学習規律と集団生活における規律とマナー

## 『いのちの授業』メンタリング教員 坪井先生

本校のメンタリング教員の坪井先生が全学年で道徳の授業を行いました。当初は2年生の授業でしたが、内容が「学年の始まりであるこの時期にふさわしい内容である」「このような素晴らしい授業は学校全体で共有すべき」との思いから、坪井先生に全学年での授業をお願いしました。すべての学年の授業を見ましたが、どの学年も真剣に考え、真剣に授業に参加していました。尾倉中学校の素晴らしいところです。「いのち」というものについての考え方は一人一人違うと思います。しかし、この授業が自分自身を見つめなおし、また、友達や家族との関わりについて考え直すよいきっかけとなってくれることを願っています。

### 1 主題名 かけがえのない生命

<D-19 生命の尊さ>生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること

### 2 教材名「命の授業」(出典:ダイヤモンド社 腰塚勇人著)

この教材は、命の尊さと人間の葛藤、生きるための強い思いを筆者の実体験を通して、書かれている作品です。ある日、主人公の腰塚さんは、スキーで首の骨を折るとい大きな事故を起こしました。手術は成功しましたが首から下は全く動かない状態となってしまいます。医者からは「一生、寝たきり」と宣告され、自分自身の存在価値を失い、自殺未遂を犯してしまいます。しかし、家族や生徒の応援と感謝の心により、自殺未遂という自分が犯した過ちに気づき、それからは「笑顔をつくること」を心がけて生活をする中で、自分自身の事を好きになっていきます。自分の気持ちを変えることで自分自身が人間として生きる事の素晴らしさに気付いていく内容となっています。

### 3 本時の学習

- (1)ねらい:筆者の生き方に触れ、自ら命を絶とうとした腰塚さんの行動やその後の心情の変化について考えることを通して、生きる事の尊さ、すばらしさに気づき、かけがえのない生命を尊重する態度を養います。
- (2)準備 タブレットPC(教師用、生徒用)、プロジェクタ、教材「命の授業」、ワークシート
- (3)展開・・・アンケートは各学年でとっています。ここでは2年生の例を挙げています。

学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	○教師の指導・支援 ●評価【評価方法】
<p>1 事前アンケート結果を見て「自分の好き度」を確認する。</p> 	<p>【自分のことは好きですか?】(2年生41名の集計結果)                  大好き7% 好き29% 少し好き22% 分らない42%                  【自分のことを好きではないと感じることはありますか?】                  いつも感じる2% 時々54% あまり34% 全く10%                  【どんなときに、好きではないと感じますか?】                  ・すぐに飽きて違うことをしているとき ・変な所で意地を張る etc                  【自分のことで自慢できることを1つ挙げましょう。】                  ・スポーツができる ・字が上手い ・人のことを手伝うのが好き etc</p>	<p>○ICTを活用してアンケート結果をスクリーンに提示する。                  ○導入では、生徒の気持ちをほぐすために、自由に発言していい雰囲気をつくり、アンケート結果を提示していく。</p> 
<p>2 教材「命の授業」の前半までを読み聞かせ、腰塚さんのプロフィールを確認する。                  3 自ら命を絶とうとした腰塚さんの行動について考える。</p> 	<p>プロフィール 中学校教師。バスケット部顧問。好きな言葉は「常勝」。しかし、スキー事故を起こし、首から下が動かなくなる。                  発問① 腰塚さんの取った行動について、あなたはどのように思いますか?                  【共感できる】                  ・これから先、何十年もこの動けないかもしれない事を考えると、すべてが嫌になるから。                  ・なにもできないから。                  ・周りの人に迷惑をかけると思うから                  ・親がくれた大切な命で無駄にしてはいけないと思うが、体が動かず人の役に立てないのなら、死んだ方がよいと思うから。                  【共感できない】                  ・どんなにつらくても大切な命だから                  ・生きることができるのに自ら命を絶つことはできない。                  ・死んだら悲しむ人がたくさんいるから。                  発問② 腰塚さんは、なぜ、そのような気持ちになったのだろう。                  ・こんな状態になったからこそ、小さな事でも喜びや幸せを感じることができるようになったから。                  ・たくさんの方が自分のことを応援していると気付いたから。                  ・家族や生徒の応援、感謝の心に気づき、自分の気持ちを変えることができたから。</p>	<p>○教材については、教師主体で読み聞かせ、場面や内容がわかりやすくするように、ICTを活用したり、黒板の掲示を工夫する。                  ○「共感できる」or「共感できない」という思いを数直線上に表し、自分の意見をまとめる時間を設定する。                  ○自分の考えを表出し生徒間の対話を促すために、タブレットPCのポジショニング機能を活用し、自分の考えを数直線上にポジショニングさせる。また、生徒の記入したコメントも全体で共有しながら、様々な意見があることに気づかせる。</p>
<p>4 教材「命の授業」の後半を読みきかせ、腰塚さんの心情の変化について考える。</p> 	<p>発問③ 腰塚さんは、なぜ、そのような気持ちになったのだろう?                  ・どんなことでもこの苦しみよりは楽しいと思えたからだと思います。                  ・自分だったらこんなことは耐えられなかった。</p>	<p>○タブレットPCの発表ノート機能を活用して全員の意見を集約し、全体で共有する。                  ○生徒に考えさせる時間をとるが、反応を見て、隣の人と意見を交わすように指示を出し、自分の考えをまとめさせる。</p>
<p>5 筆者のメッセージ映像を見て、授業の感想を書く。</p>	<p>メッセージ                  ・口は、人を励ますために使おう。                  ・耳は、人の話を最後まで聴いてあげるために使おう。                  ・目は、人のよいところを見るために使おう。                  ・手足は、人を助けるために使おう。                  ・心は、人の痛みがわかるために使おう。</p>	<p>○筆者のメッセージ映像を見せることに専念し、教師は多くを語らず、余韻をもって授業を終えるようにする。                  ●筆者の生き方を通して、かけがえのない自他の生命を尊重する態度を養うことができたか。                  【ワークシート】</p>

命の授業 腰塚 隼人

2002年3月1日 人生を大きく変える 出来事がありました

それはスキーで転んで 首の骨を折ったことです

救急車で病院へ運ばれました

このとき、お医者さんは奥さんに たぶん、寝たきりか車いすの生活になるでしょうと・・・

手術は成功しました しかし、一週間経っても 手足はまったく動きませんでした

のどには 管が入り しゃべることも できませんでした

毎日、どうやったら死ねるか・・・ そればかり考えていました・・・

手足の動かない私が 死ねる方法・・・ それは、舌を噛むことでした・・・

舌を噛みましたが でも痛くて途中で止めました 死ねませんでした・・・

本当は 生きていたかった・・・ でも生き方がわからなかった

そんな私に 生きる勇気をくれた人

「何があってもずーっと一緒にいるから・・・」 奥さんの言葉・・・

「お母さん、代わるものなら 代わってあげたい・・・」

「先生、待ってるから・・・」 仲間と生徒たちの言葉

事故で死んだ教え子の存在 病気で死んだ友達の存在

「優しさ」と「強さ」を もらったときでした・・・

一人じゃないって・・・

生きなきゃって・・・

助けてって 言っていたんだって・・・ 気がつきました

動けなくても 「花」のように生きる事は できるかも知れない・・・

いつも「笑顔」でいると決めた どんなことにも「ありがとう」を言おうと決めました

そうしたら・・・ 手足が動き始めて くれたんです

そして、必ず学校へ 戻ると決めました

しゃべれる喜び 立ち上がれ 歩ける喜び 字が書け おはしが使える喜び

当たり前だと思っていたことに 「幸せ」と「感謝」を 見つけました・・・

ケガから4ヶ月後 学校へ戻れました

学校へ戻るときに 決めたことがあります

口は 人を励ます言葉や 感謝の言葉を言うために 使おう・・・

耳は 人の言葉を 最後まで聴いてあげるために 使おう・・・

目は 人の良いところを 見るために 使おう・・・

手足は人を 助けるために 使おう・・・

心は 人の痛みがわかるために 使おう・・・

私を助けてくれた人たちが してくれたことを 今度は私がしよう・・・

実は首の骨を折ったあと お医者さんから 赤ちゃんができないかもしれませんって言われました

でも 奇跡が起きました・・・

2004年7月5日 息子が誕生しました

息子が生まれてきてくれて 改めて感じたことがあります

子どもはいるだけで 人を幸せにしてくれている

転んでも 転んでも あきらめないで 何度でも立ち上がって 歩いてくれた

そして笑顔は 人を幸せな気持ちに してくれている・・・

そうなんだ 人は生まれたときから 人を喜ばせる存在で

苦しいことがあっても 乗り越えられる力を 持っている

生まれたときから 持っている力を もう一度人のために 使うと決めました

それと 私は首の骨を折って 「大失敗」をしました

一度は 辛くて、苦しくて 生きることを 終わりにしようと思った

でもみんなのおかげで 生きることをやめずに 幸せになる努力を 続けてこれました

君たちもこれから 何度も失敗をして 辛い思いや悲しい思いを することがあると思う

でもね、失敗は 悪いものではなく 夢にまた一歩近づき 成長した証拠なんだ

「失敗」の反対の言葉は 「成功」ではなく 人のセイや言い訳をして 「何もしなくなること」

自分の人生 失敗しても 自分を信じて 自分で楽しく生きる 努力を続けてほしい

決して 一人じゃないから 応援してくれる人は 必ずいるから

そして 強い気持ちの夢は 必ず叶うから

笑顔と ありがとうを たくさん言って みんなで楽しく 生活しようね